



2021. 11. 10

金融庁「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」支援案件の完了

静岡銀行(頭取 柴田 久)では、昨年4月、金融庁が金融機関の基幹系システムに関する先進的な取り組みを支援するために設置した「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」に申請し、第1号案件として支援を受けていましたが、このたび、オープン系技術を活用した次世代勘定系システムの構築が完了し、本支援期間を終了しましたので、その概要をご案内します。

1. 支援期間 2020年4月から2021年11月まで

2. 案件概要

- 静岡銀行では、より先進的な金融システムの実現をめざして、本年1月4日に「次世代勘定系システム」を稼働しました。
- 本システムは、従来の信頼性・堅牢性を維持しながら、オープン系技術を採用したことで、最新技術を活用した金融サービスとの柔軟かつ迅速な連携を可能としました。
また、システム構成のシンプル化（業務機能単位の部品化、プログラム処理のパラメータ化など）を図ることで、機能追加時におけるスピードアップとコスト削減が期待できます。
- 今後も、デジタルトランスフォーメーションの土台となる本システムを通じて、より安心・安全なサービスの提供に努めるとともに、スマホ金融サービスの拡充や外部クラウドサービスの活用など、お客さまのニーズに応じた先進的で付加価値の高い商品・サービスの提供や、営業体制の変革・営業チャネル拡充等に積極的に取り組みます。

3. 支援結果

- 支援結果については、金融庁ホームページ (<https://www.fsa.go.jp/news/r3/sonota/20211110.html>) をご覧ください。

<「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」とは>

- ・金融庁は、金融機関による新たな基幹系システムに関する前向きな取り組みを支援するため、2020年3月、「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」を設置しました。
本ハブでは、支援案件ごとに、法令解釈等の機能に加え、ITガバナンスやITに関するリスク管理等システムモニタリングなどの観点から、早い段階より議論させていただくことで、後押ししています。